

## コラム

### 「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」、 「子供と家族・若者応援団表彰」

新たな「子供・若者育成支援推進大綱」（平成28年2月9日子ども・若者育成支援推進本部決定）において、地域における子供・若者の社会貢献活動等に対する評価や社会的認知度を一層高めるため、内閣総理大臣表彰を創設することとされた。

これを受け、平成26（2014）年度まで内閣府特命担当大臣表彰として実施されてきた「社会貢献青少年表彰」を刷新し、平成27（2015）年度、内閣総理大臣表彰として「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」を創設し、平成28（2016）年3月23日、表彰式を開催した。

平成27（2015）年度「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」において内閣総理大臣表彰を受賞した2団体及び「子供と家族・若者応援団表彰」において子供・若者を育成支援する活動で内閣総理大臣表彰を受賞した2団体を紹介する。



#### 「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」（内閣総理大臣表彰）

##### (1) 秋田県立大曲養護学校 絆プロジェクト（秋田県）

秋田県立大曲養護学校では、小学部から高等部の約170名の児童生徒が、七夕花火大会、地域のクリーンアップ活動、除雪ボランティア活動など様々な地域貢献活動を展開している。学校では、この取組を、地域に根差した学習活動及び地域の人々との日常的な交流活動による特色ある教育活動と位置付け、平成4年の開校時より継続的に行っている。プロジェクト全体の計画立案は教員が行っているものの、活動の見通しが立つにつれ、児童生徒自身で企画をするなど、自発的な取組が見られるようになる。

養護学校の取組は、知名度が高く、学校主催のイベントには多くの地域住民が気軽に参加している。これらの活動を通して生徒自身の成長も促され、働く力が向上するほか、地域活性化の担い手として期待されている。



## (2) 犬山新成人の集い実行委員会（愛知県）

犬山新成人の集い実行委員会は、平成13年から新成人自らが企画・運営する「新成人の集い」を開催している。全国的に成人式における新成人のマナーの悪さが問題となっていた当時、犬山市が、市主催の成人式を開催しないという決断をしたのがきっかけとなり、新成人自ら会費を出し合い、旧来の成人式の形にとられない独自の「新成人の集い」を開催するようになった。その年の新成人が企画を行い、運営や準備においては、過去の実行委員経験者が“応援団”として支援している。また、新成人になったことを契機に、「これまで育ててもらった地域に感謝の気持ちを行動で表そう」という想いから、美化活動や地元イベントのお手伝いなど、様々な社会貢献活動にも取り組んでいる。近年全国的に青年組織の活動の低下が懸念される中で、地域の若者を代表する組織としての存在価値も高まっており、実行委員経験者が公的な会議の委員に推挙され、若者代表として意見を述べるなど活動の幅を広げている。

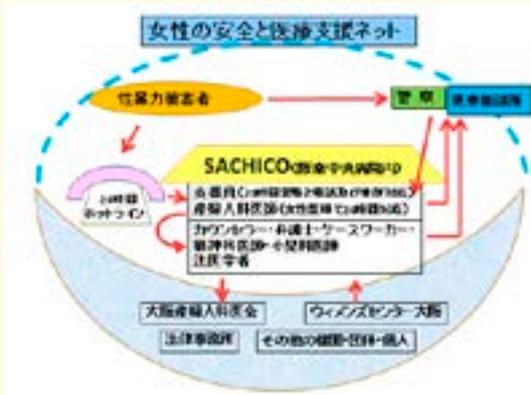


## 「子供と家族・若者応援団表彰」（内閣総理大臣表彰）

### (1) 特定非営利活動法人性暴力救援センター・大阪SACHICO（大阪府）

大阪SACHICOは、平成22年4月に阪南中央病院内に開設した全国初の病院拠点型性暴力被害者ワンストップ支援センターである。24時間365日体制で電話相談を受け付け、来所相談やニーズに応じた診察治療、被害者が希望すれば証拠物の採取・保管、また弁護士・カウンセラーの紹介など、直近の被害から回復に向けての総合的支援を行っている。設置から5年間で、2万3千件を超える電話相談、延べ約3千件の来所相談を行った。団体の活動は高く評価され、第4次男女共同参画基本計画（平成27年12月25日閣議決定）及び第3次犯罪被害者等基本計画（平成28年4月1日閣議決定）では、ワンストップ支援センターの設置促進が位置付けられている。また、平成26年度から内閣府男女共同参画局の「性犯罪被害者等のための総合支援モデル事業」として、大阪府との連携のもと、性暴力の証拠物取扱いマニュアル

ルの策定や支援員の養成、夜間相談体制の充実などの取組を進めてきており、子供の性暴力被害の防止や被害を受けた子供に対する支援を充実させている。



## (2) CLUB ATTRACTION (京都市)

CLUB ATTRACTIONでは、「地域活性化」を大きな目標として、8大学、約100名の学生が様々な機関と連携して、地域貢献活動を展開しており、子供などを対象にした農業体験、自然体験、集団宿泊体験、スポーツ活動等を行っている。中でも平成23年から展開している「あおぞらきょうしつ」は、公園に集まった子供たちに「集団遊び」の機会を無償で提供するもので、滋賀県・大阪府・京都府を中心に、これまでに累計約1万人の子供たちの参加を得ている。多くの学生がSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を通して、広く活動を拡散させており、学生や地域の人の子供たちにコミットする活動は保護者から高い評価を得ながら、年々その活動の幅を拡大させている。

